

マンボを踊るスタッフの皆さん



子どもから大人まで楽しく踊れる

北広島だいつくマンボ



地域交流ホーム「ふれて」や、地域サポートセンター「ともに」のイベントで発表される、「北広島だいつくマンボ」を見たことがありますか。施設を運営する社会福祉法人・北海長正会のスタッフが5年前に考案しました。早川彩子さんは「ふれて」がオープンしたのを機に、子どもからお年寄り、障がいがある方も一緒に楽しめることが何かできないかと思いました。歌や踊りは誰でも参加しやすいので、この踊りが生まれたんです」と話します。

北広島の特産品「まるひろ大根」を題材に作詞作曲し、振り付けを考えました。踊りやすい簡単な動きで、作業療法士と考えた健康体操の要素も組み込まれています。スタッフが着ている大根をイメージした衣装も、とてもユニーク。先月開かれた「ふれてフェスティバル」でも披露され、来場した親子や高齢者がスタッフと一緒に大根の帽子をかぶり、マンボのリズムに合わせて踊ったり、手拍子を送ったりして大盛り上がりでした。最近では、自治会・町内会の祭りなどでも踊る機会が増えたそう。また、四恩園のホームページから動画を見ることが出来ます。地域の皆さんがお互いに支え合い、つながるようお願いがこもったマンボ。町中に広まって、みんなを笑顔にしてくれるでしょう。

まめ記者

コミュニティスクールとしての活動



西部中学校3年 山崎翼さん (生徒会長)

西部中学校は、先生と保護者、地域の方々が連携して子どもの成長を支えるコミュニティスクール(以下CS)に認定されています。CSの活動として昨年は西部地区の振興会と連携し、私たち生徒が企画した「バスケットボール大会」と「お菓子作り体験」を行いました。バスケットボール大会では、小学生チームと中学生チームが戦ったり、校長先生たちのドリームチームが特別参加したりと、とても盛り上がりました。また、お菓子作り体験では、西部小学校の卒業生であるパティシエの方を講師としてお呼びし、小・中学生合同でお菓子を作りました。この2つの活動はとも活気があり、学校と地域のつながりをさらに深めることができました。これからも、西部中学校のCSという特色を生かし、たくさんの方の活動をしていきたいです。



お菓子作り体験